

こどもたちの居場所を作ろう

ゆとりある職場環境

オンライン授業で不登校支援も

異学年で交流を深めよう

調理実習ボランティアで地域交流

ICTを活用した授業

グループ学習など多様な学習形態

※学校のイラストはイメージです。

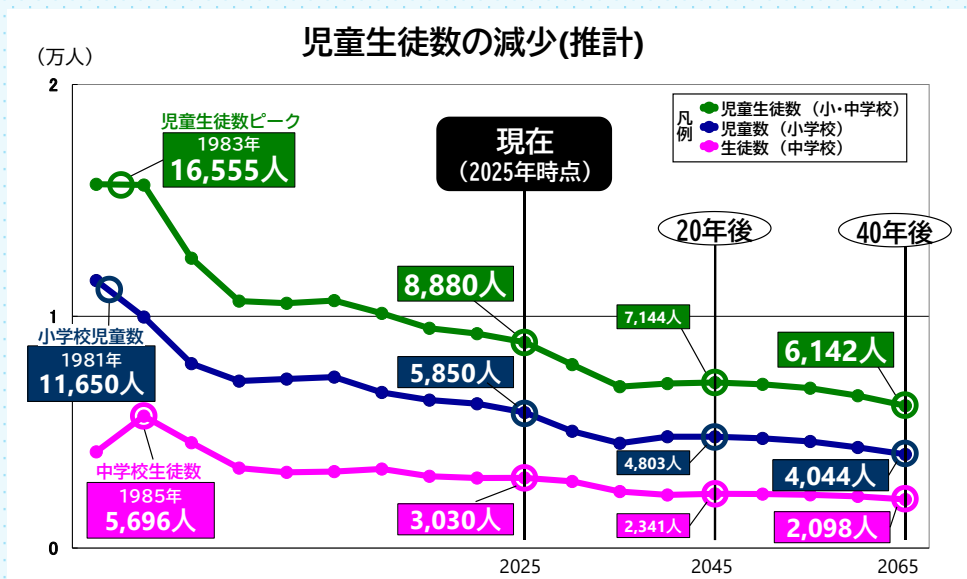
バリアフリーでみんなが安全に過ごせる場所へ

01

今の学校、課題はなんだろう？

座間市の児童生徒数の減少と、学校施設の老朽化、さらには教育環境の変化など学校を取り巻く状況をご紹介します。

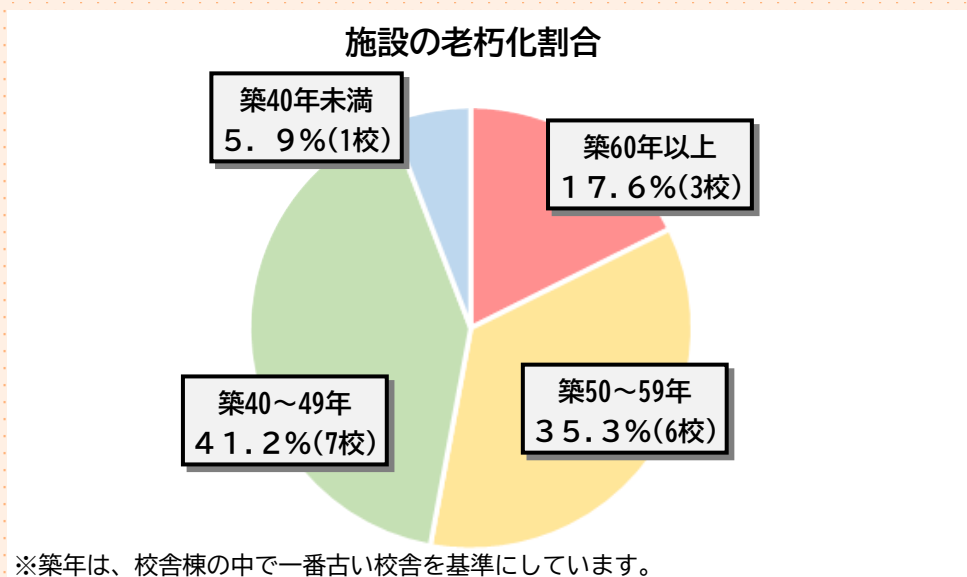
児童生徒数の減少



✓ピーク時に比べ、現在の児童生徒数は約46.4%まで減少しています。

✓20年後には、さらに20%ほど減少する見込みです。

学校施設の老朽化



✓児童生徒の急増期に整備した学校施設は、経年による老朽化対策が急務となっています。

✓新しい時代に対応した学習環境の整備等を進める必要も生じています。

● 児童生徒数の減少が進むとどうなる？

✓ 児童生徒数が少なくなり、小規模校になると、クラス替えが難しくなったり、班活動やグループ分けの制約など、人間関係での課題が生じます。

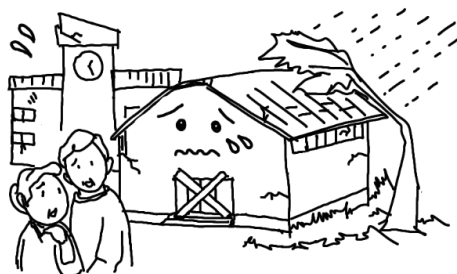


★ ワンポイント ★

- ・ 小規模校とは・・・学校全体の児童生徒数が少ないこと。
- ・ 少人数学級とは・・・学校全体ではなく、1クラスの人数が通常より少ないこと。

● 施設の老朽化が進むとどうなる？

✓ 学校施設の老朽化が進んでいるため、多くの学校で建替えや改修が必要ですが、児童生徒数が減っているため、全ての学校をこのまま維持するのは困難です。



魅力ある学校づくり

そこで、座間市では、子どもたちにとってより良い教育環境を整え、色々なコトに挑戦したいと思える「魅力ある学校づくり」に取り組んでいきます。

ざま魅力ある学校づくり方針

〔令和6年3月策定〕

- ✓ 本方針は、将来を見据えた学校の適正規模・適正配置及び望ましい学習環境や目指すべき姿についての基本的な考え方を整理したものです。

座間市における 望ましい学校規模

【1学年あたりの望ましい学級数】

小学校：1学年3～4学級（1校当たり18～24学級）

中学校：1学年4～6学級（1校当たり12～18学級）

座間市における 望ましい学校配置

【通学距離（現在の市内の最長距離）】

小学校：約2.2km

中学校：約2.5km

※超える場合には、学区の選択制や中学校での自転車通学等を検討

【分散進学の解消】

可能な限り、一つの小学校から全員が同じ中学校に進学

【地域社会との関係】

通学区域は原則として、地区に基づき設定

魅力ある学校づくりを進めると

- ✓ 幅広い人間関係が築け、人間関係に配慮したクラス替えができます。また、チームティーチング、グループ別指導など多様な指導形態がとれます。



- ✓ 将来的な児童生徒数に合わせて効率的に整備を進めることで、子どもたちにとって望ましい充実した学習環境の確保がしやすくなります。



魅力ある学校づくりのために、移転・統廃合・通学区域の見直しを行う
「学校再編」が必要です。

学校再編によりあたらしくなる学校のイメージ

【学校づくり方針 3つの柱】

1 新しい時代に求められる学習環境

フレキシブルに使える空間で 多様な学習形態に対応



- ・オープンスペースを整備して、移動可能な机やイスなどを設置し、フレキシブルに使える空間を作る。
- ・間仕切りで区切れる教室を作り、少人数指導や国際教室などでも活用する。

学校全体が環境教育の教材



- ・自然を観察できる屋外空間を整備し、地域ボランティアと一緒に学ぶ環境をつくる。

学校図書館のメディアセンター化



- ・学校図書館をメディアセンター化し、調べ学習の拠点に。
- ・読み聞かせスペースを設置し、学年を超えた交流へ。

2 子どもたちや教職員が快適に過ごせる学校施設

一人一人に応じた支援がしやすい環境



- ・居心地の良いマルチルームを設置し、間仕切りで区切れるようにする。
- ・それぞれの小部屋は、カウンセリング、不登校支援の居場所、児童のクールダウンスペースなどとしても活用する。

機能的かつ開放的な職員室へ



- ・個人・グループのワークスペースや教職員の休憩スペースを設置する。
- ・ロビー、応接室や電話スペースの設置等校務を行いやすい環境にする。
- ・心にゆとりをもてる職場環境として、先生の姿が身近に感じられる空間へ。

様々な活用ができるランチスペース



- ・給食をとおした食育、異学年交流・コミュニケーションが広がる場。
- ・地域との食事会、災害時やイベント時などにも活用できる。

3 地域とともにある学校

学校と地域をつなぐ拠点に



- ・コミュニティ・スクールの拠点となる部屋を校内に設置する。
- ・読み聞かせ、学習ボランティアの拠点として、学校の困りごと・地域の困りごとにみんなで対応する拠点施設へ。

何かができる・みんなに会える場



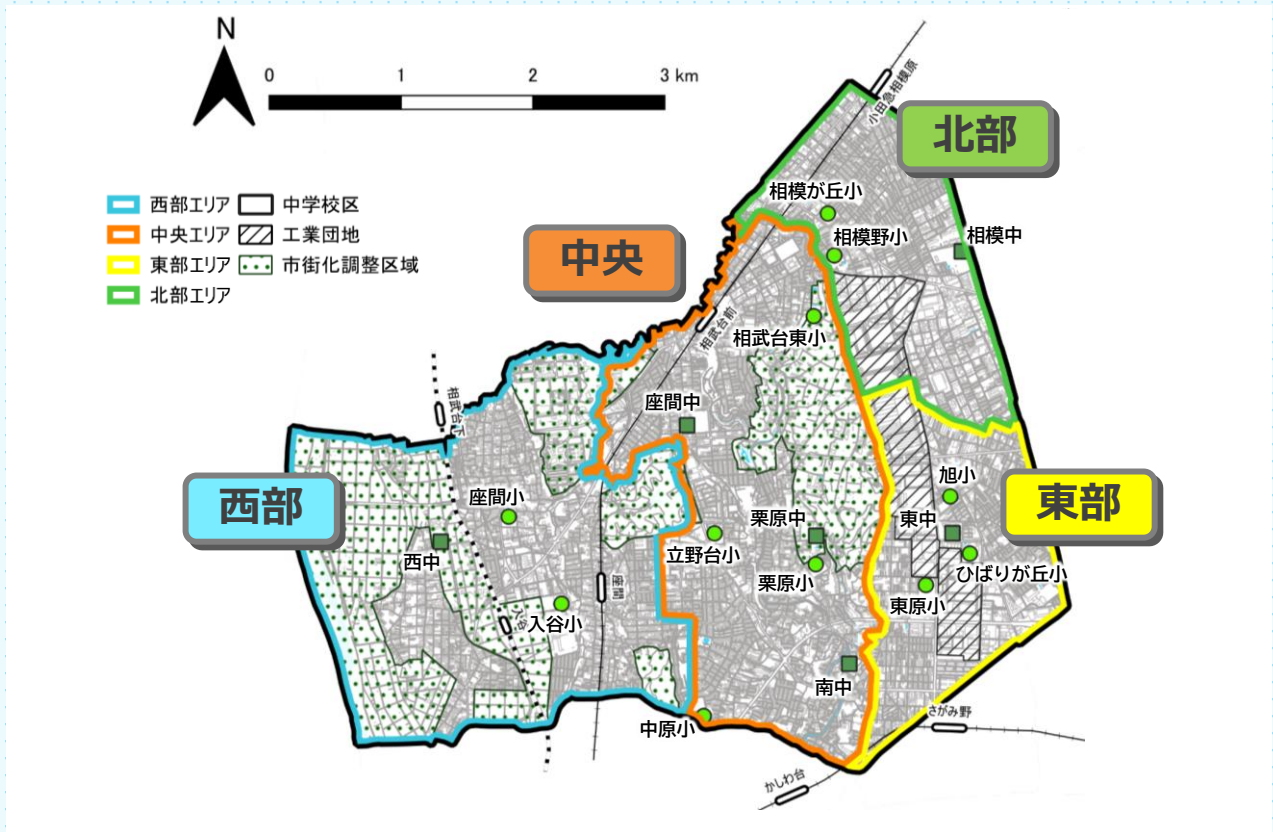
- ・地域に必要な機能との複合化により、多世代との交流の場に。
- ・児童生徒にとって地域の方々の活動が身近になり、交流や体験の機会が生まれる。

学校再編計画ってなんだろう？

未来へつなぐ「魅力ある学校づくり」を目指すため、「学校再編計画」を作ります。
ここでは、計画の概要やエリアごとの方向性をご説明します。

4つのエリア

✓ 本市全体の地域特性や学校配置を考慮し、
市域を4エリアに分けました。



西部エリア

【小学校】座間小学校、入谷小学校
【中学校】西中学校

中央エリア

【小学校】相模台東小学校、立野台小学校、栗原小学校、中原小学校
【中学校】座間中学校、栗原中学校、南中学校（一部）

東部エリア

【小学校】ひばりが丘小学校、東原小学校、旭小学校
【中学校】東中学校、南中学校（一部）

北部エリア

【小学校】相模が丘小学校、相模野小学校
【中学校】相模中学校

エリアごとの再編の方向性



西部

通学区域の見直しによる望ましい学校規模の確保

- ✓ 小学校で学校規模に差が出ているため、通学区域見直しにより、学校規模のバランスを整えます。



中央

統合等による望ましい学校規模の確保

- ✓ 小・中学校で小規模校化の傾向があり、小学校3校で分散進学が発生しているため、望ましい学校規模や学校配置の確保に向けた統合等を進めます。

東部

統合等による望ましい学校規模の確保

- ✓ 小学校3校が近接し、小規模校化の傾向や分散進学が発生しているため、望ましい学校規模や学校配置の確保に向けた統合等を進めます。



北部

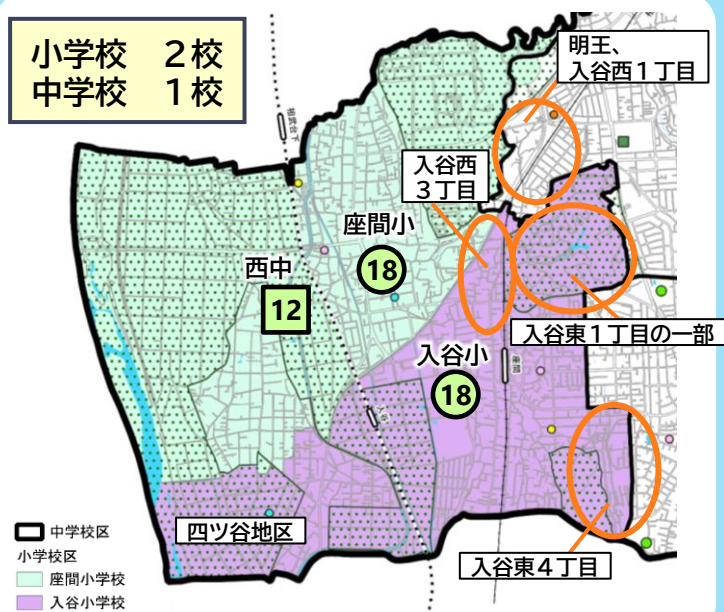
通学区域の見直しによる望ましい学校規模の確保

- ✓ 小学校で学校規模に差が出ているため、移転も視野に入れた通学区域見直しにより、学校規模のバランスを整えます。

再編プラン全体像

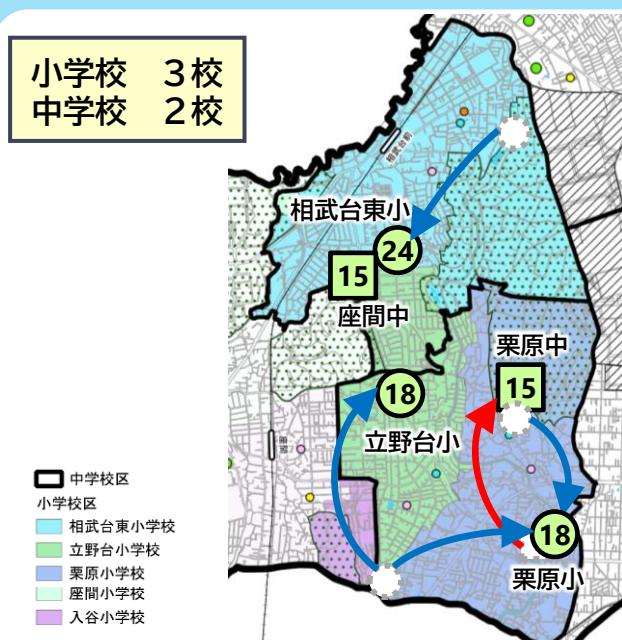
エリアごとの再編を進めた将来のすがたやポイントをお示しします。

将来のすがた、各エリアのポイント



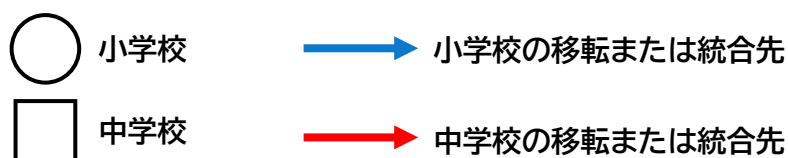
西部 エリアの再編ポイント

- ☑ 児童数の多い座間小学校と児童数減少が進む入谷小学校の規模を改善するために、入谷小学校の通学区域を拡張します（入谷東1丁目の一部、入谷東4丁目、入谷西3丁目、四ツ谷）
- ☑ 明王、入谷西1丁目は立野台小学校区に変更します
- ☑ 四ツ谷地区は、現在と比べ、通学距離が約600m短縮します



中央 エリアの再編ポイント

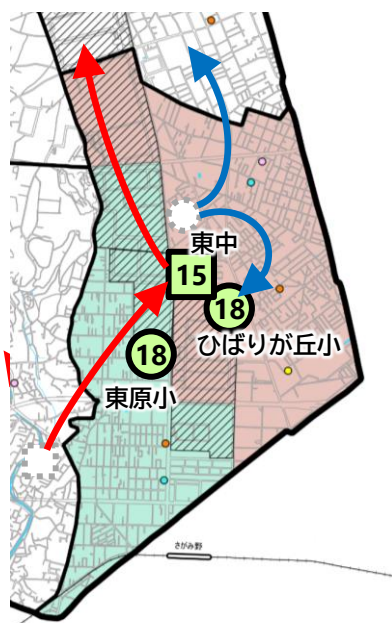
- ☑ 相武台東小学校を座間中学校敷地内に移転します
- ☑ 小規模校化が進む、中原小学校、南中学校を廃止します
- ☑ 栗原小学校の移転により、児童居住地と学校配置のアンバランスを解消するとともに、受入する中原小学校児童の通学負担を軽減します



※枠内の数字は20年後の通常学級数

- 公民館
- コミセン
- 児童館
- 保育園(公立)
- 老人憩いの家
- 市街化調整区域
- 工業地域

小学校 2校
中学校 1校



東部 エリアの再編ポイント

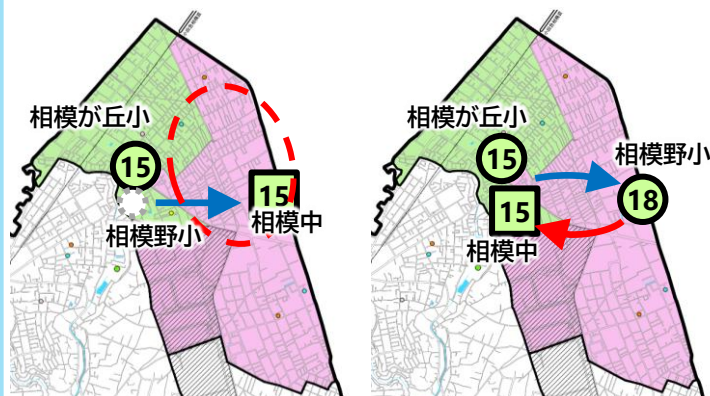
- ☑ エリア内全域で分散進学を解消します
- ☑ 小松原2丁目は相模野小学校区に変更し地区と整合させます
- ☑ 旭小学校を廃止し、ひばりが丘小学校と統合することで望ましい学校規模を確保します

小学校 2校
中学校 1校

- 中学校区
- 小学校区
- 相模が丘小学校
- 相模野小学校

案①

案②



北部 エリアの再編ポイント

案①②共通

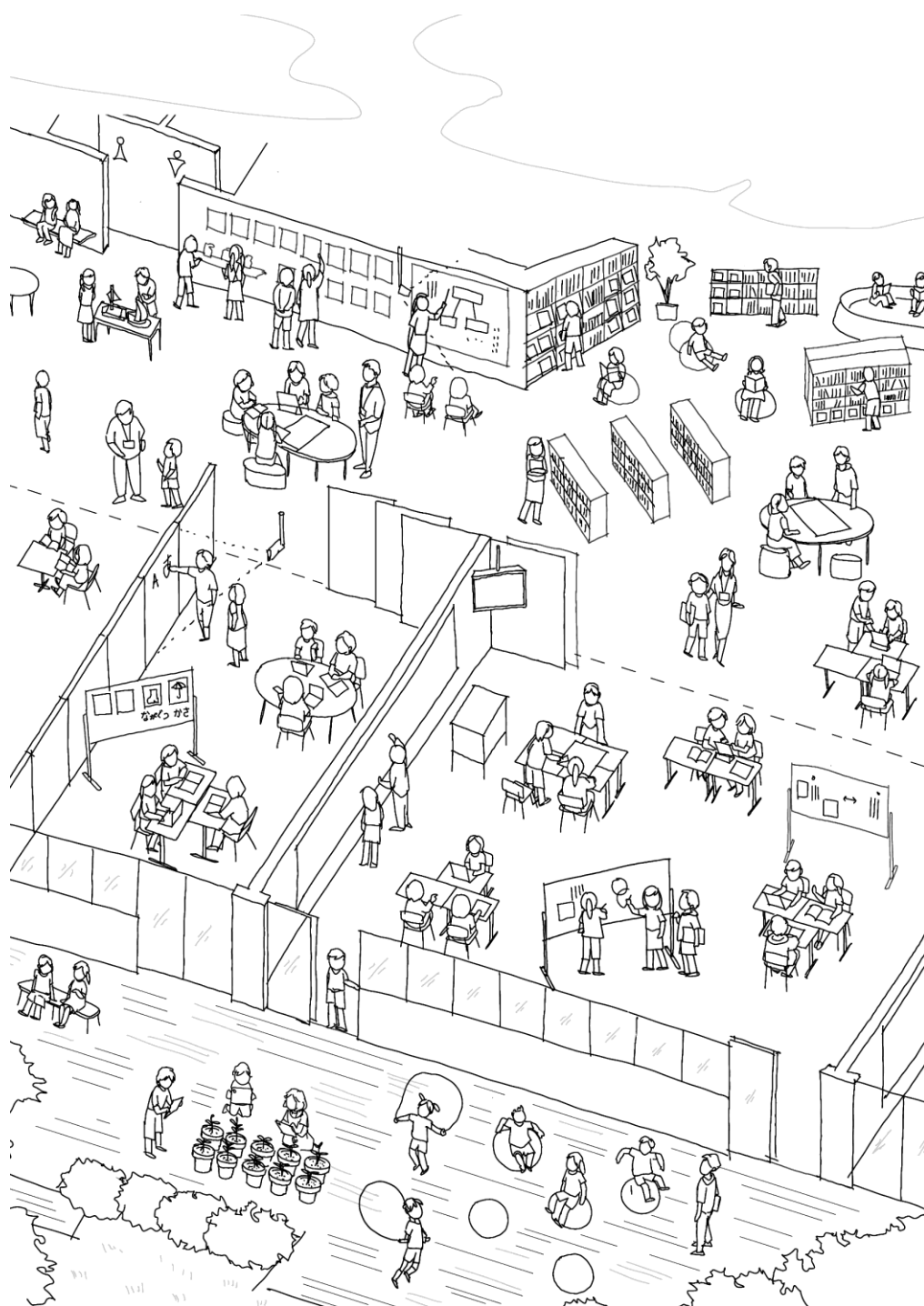
- ☑ 相模野小学校を移転し、通学区域を見直すことで、老朽化対応と望ましい学校規模を確保します

案①

- ☑ 移転候補地を相模が丘地区東部とすることで、望ましい学校配置にします

案②

- ☑ 望ましい移転候補地の活用が見込めない場合は、相模中学校との敷地入れ替えも検討します



※学校のイラストはイメージです。